特定非営利活動法人　大規模災害対策研究機構（CDR）
更新：2026 年 10 月 19 日

2026 年度　大規模災害対策に関する現地調査
『三重県沿岸地域における過去の災害対応での教訓と南海トラフ巨大地震対策への適応とその課題』

調査概要とご協力のお願い

2026 年 12 月 9 日(水)～12 月 11 日(金)　／　参加予定：約 25 名

1.　現地調査のねらい

本調査では、単に「防災の先進事例」を見て回るのではなく、南海トラフ巨大地震を見据え、人口減少・高齢化・担い手不足が進む地域で、これからの暮らしや地域社会をどのように維持していくのかを考える機会とします。

特に、平時の地域課題を解決する取組が、災害時の生活継続や地域レジリエンスの向上にもつながるような「社会システム」を、現地で考えることを重視します。また、役所で施策の説明を伺うだけでなく、実際に取組が行われている場所や、災害時に役割を担うことが想定される施設・地域を訪ね、現場を見ながら意見交換を行いたいと考えています。

- 大規模災害時に、被災市町だけでは対応できないことを前提に、県内外からどのように支えるのか。
- 行政、企業、地域団体、専門家などが、それぞれの立場や強みを生かしながら、平時・災害時の双方で地域を支える仕組みをどのようにつくるのか。
- 人口減少・高齢化が進む中で、交通、買い物、健康増進、社会参加、見守りなどを含め、「その地域で暮らし続けるための社会基盤」をどのように再構築するのか。
- 「防災のためだけの仕組み」を新たにつくるのではなく、平時の地域課題を解決する取組が、同時に災害にも強い地域をつくるような仕組みを考えられないか。

2.　2026 年度調査で訪問を希望・検討している候補地

（1）いなべ市　：【どう支えるか?】「支える側」の後方支援と行政・企業の連携

南海トラフ巨大地震時に、いなべ市を沿岸被災地の後方支援拠点として位置づける構想に注目しています。避難者の受入れ、物資の代理受領・中継などに加え、行政と市内企業がそれぞれの立場や強みを生かし、社員の力や車両・施設等を持ち寄って地域を支える仕組みに関心があります。

- **訪問希望日時　：　12 月 9 日(水)　13:00～16:00 頃**
- **特に伺いたいこと**
  - 後方支援の具体像と沿岸部との関係
  - 行政と企業が担う役割
  - 企業が参画する背景・考え方
  - 企業 BCP と地域復旧との接続
  - 平時に有する車両・施設等を災害時に生かす方法
- **現場で見たいもの（現地解説）**
  ※滞在時間との調整で可能な範囲で結構です。視察なしでも差し支えありません。
  - 後方支援拠点として想定している場所や物流動線
  - 連携企業の工場・車両・施設等

- **その他希望（可能な範囲でご検討いただけますと幸いです）**
  - いなべ市総務部防災課／大月浩靖様と奥村 CDR 副理事長（関西大学教授）とは面識あり
  - 後方支援構想
  - 三重県北部の他自治体との平時からの連携強化の取組
  - 新庁舎整備にあたって災害対応のために工夫された点
  - 実際に連携している企業の方からのお話

（2）津エリア（津市）：【県都・行政中枢をどう維持するか】県全体と県都の機能維持

津市は県庁所在地であり、自ら大きな被害を受ける可能性がある一方、県・市の行政中枢機能を維持し、広域的な支援・受援を担う必要があります。津市と三重県の双方から話を伺い、県都としての課題と、県全体を俯瞰した課題の双方を考えたいと思います。

- **訪問希望日時　：　12 月 10 日（木）　9:00～12:00 頃**

【2026 年度】

- 津市危機管理部防災室様との協議の結果、議会対応の都合により、2026 年度は香良洲高台防災公園にて、現地視察、解説、意見交換を行うことになった。

（現地で伺いたいこと）

- 高台公園整備にあたり、香良洲高台協議会を立ち上げ、行政関係者だけでなく地元住民も交えて協議した経緯
- 盛土に河川浚渫土等を活用した経緯
- 上記を含め、高台公園整備の考え方と、平時・災害時の役割について

（3）多気町　：【暮らしを支える新しい社会システムを，広域連携と地域づくりからどうつくるか】地域づくりそのものを防災力につなげる

VISON の開業を契機に、多気町・明和町・大台町・度会町・大紀町・紀北町の 6 町が行政区域を越えて連携し、人口減少・高齢化、医療、交通、観光、デジタル、防災、脱炭素など複数の地域課題を一体的に解こうとしている点に注目しています。医療 MaaS（中山間地域における住民の健康・生活を維持するモビリティサービス実装事業）、デジタル地域通貨「美村 PAY」、地域交通などを、「暮らしを支える社会システム」を再設計する取組として捉えたいと考えています。また、脱炭素・地域エネルギーの取組、VISON と多気町の災害時連携、住民主導の防災活動なども一体的に見たいと考えています。

- **訪問希望日時　：　12 月 11 日（金）　10:00～16:00 頃（途中昼食を挟んで）**
  - 多気町総務課様と未来まちづくり課様との協議の結果、以下となった。
    10:00～12:00　多気町役場にて講話と意見交換会
    (テーマ)
    - 多気町の紹介
    - VISON について
    - スーパーシティ構想について
    - デジタル田園都市国家構想について
    - 美村プロジェクトについて
    - 脱炭素先行地域について

13:30～16:00　VISON にて施設開設と意見交換会
（特に伺いたいこと）
- 6 町連携が生まれた経緯と、その運営の仕組み
- VISON と多気町との災害時における連携
- 施設の設計段階において、災害時の活用についてどのような検討・協議が行われたか
- 災害発生時における施設の活用について、どのような想定や準備がなされているか
- 今後の災害対応に向けた活用や連携のあり方

（4）志摩市　：【どう逃げ，命を守るか】津波避難、観光、人口減少、情報･企業連携

津波避難という研究上の関心に加え、観光客という地域外人口の問題、人口減少下での避難支援、情報・通信・企業との連携を同時に考えられる地域として注目しています。

- **訪問希望日時　：　12 月 10 日（木）　13:30～17:00 頃**
- **特に伺いたいこと**
  - 住民・観光客の津波避難
  - 地域を知らない人への情報提供
  - 担い手不足の中で、平時の人流・通信・観光サービスを災害時にも生かす方法
  - 企業との継続的な連携
- **現場で見たいもの（現地解説）**
  ※滞在時間との調整で可能な範囲で結構です。視察なしでも差し支えありません。
  - **津波避難施設、津波避難タワー**
  - 観光客が多く滞在する沿岸・観光エリア
  - 情報提供や通信を含む避難支援の実装場所
- **その他希望（可能な範囲でご検討いただけますと幸いです）**
  - 「住民の避難」と「地域を知らない観光客の避難」の違いを現場で確認したいと考えています。
  - 地域活性化企業人制度でソフトバンク社員を受け入れた実績について、関係者からお話を伺いたいと考えています。
  - 市内の特定避難困難地域における津波避難タワーの整備事例、および津波避難タワーの平時の利活用等について、可能であれば現地案内と併せてお話を伺いたいと考えています。

3.　各位にご協力をお願いしたい事項

●下記時間はあくまでも目安です。無理のない範囲でお願いできれば幸いです。

① 講演会会場（会議室）の借用
② 話題提供・ご講演のお願い
  - パワーポイントによるご講演：40～60 分程度
  - 質疑応答・意見交換：60～90 分程度
③ （可能であれば）現地視察・現地案内
  - 前記の希望事項等をご考慮いただき、適切な場所をご提案いただくとともに、ご対応

の可否について事前に関係機関あるいは訪問先とご相談・調整いただけますと幸いです。

●ご講演について

当日のご講演で使用される PowerPoint ファイル、あるいは PDF ファイルをご提供いただくことは可能でしょうか。

ご提供いただけるようでしたら、事前に参加者へのテキスト・参考資料として、CDR 事務局から配付させていただきたいと考えております。

なお、配付用として内容を一部抜粋・間引きしていただいた資料でも結構です。

ご提供いただける場合、資料作成・配付の準備の都合上、11 月 30 日（月）頃までを目安にお送りいただけますと大変助かります。

期日までのご提供が難しい場合は、事務局までご相談ください。

4.　お問い合わせ先

特定非営利活動法人　大規模災害対策研究機構（CDR）事務局
〒531-0074　大阪市北区本庄東 2-3-20　㈱ニュージェック研究開発グループ気付
担当：　事務局長　吉田和郎（yoshidakz@newjec.co.jp）
（TEL）06-6374-4420（吉田携帯：090-6966-1015）
（事務局 E-mail）cdr@newjec.co.jp
（CDR ホームページ）http://www.e-tsunami.com/